

市議会レポート

2014-②

〈まちだ皇介事務所〉
〒362-0015 上尾市緑丘3-6-32
TEL/FAX 048-793-4811
Eメール k.machida@ba.wakwak.com
ホームページ http://k-machida187cm.com/

信頼・発信・安心の まちだ! ~AGEO~

上尾市議会議員

35歳

まちだ皇介



6月定例会が6月10日から25日の日程で開催されました。2月の大雪により被災された農業者の方々への支援対策費を含めた一般会計補正予算をはじめとする市長提出議案17件、議員提出議案1件が可決され、請願1件が採択されました。

また、今定例会から一般質問の質問方法を従来の一括式に加え、一問一答式、複合式の中から選択できるようになりました。

(6月・9月定例会は試行)⇒まちだは一問一答式で質問を行いました。


※一括式…議席、傍聴席を向いた演壇で複数のテーマをまとめて質問し、執行部もまとめて答弁をする。質問・答弁は各3回まで。

※一問一答式…執行部と対面する議席側の質問席から一問ずつやりとりを行う。執行部の答弁は自席。質問回数は無制限。(国会の予算委員会のイメージ)


※複合式…1回目は一括式で、2回目以降、一問一答式で行う。

まちだ皇介の一般質問〈抜粋〉

●市内循環バス・ぐるっとくんの再編について


 今年3月に策定された上尾市総合公共交通基本計画を見ますと、ぐるっとくんの再編というものが、まず大きな柱になるのだと思います。現在、6循環ある路線を9路線に増やし、運行本数は現状より概ね2割増加させ、路線延長と運行時間を概ね2割短縮させるという目標が掲げられています。計画によりますと、このぐるっとくんの再編スケジュールは、今年度と来年度の2カ年の予定となっていますが、この2年間の具体的な工程についてお伺い致します。

●市民生活部長答弁……………
今年度は、上尾市地域公共交通活性化協議会におきまして、新ルート、ダイヤの詳細を検討致しまして、27年度は運輸局への認可申請を経て、27年秋頃から新旧路線による運行開始を考えております。

 今回の再編の目的の中に、「利用者ニーズと財政負担のバランスを考慮した効率的かつ持続可能な運行」とあります。市の財政(税

収)もバス利用者も右肩上がりでしたら際限なく市民のニーズのみを追求すればよいところですが、予算の制限もありますので、このバランスをとって行くには様々なことを考えなければなりません。現在は、ぐるっとくんでの市の支出が年間約1億円ありますが、再編後、市の財政負担という点では、どの程度の金額をベースに考えているのか、お聞かせください。


●市民生活部長答弁……………
今回のぐるっとくんの再編によりまして、ルートダイヤの再編と利便性の向上を図る施策を実施することで、現在の財政負担の約1割から2割の削減を目指していきたいと考えております。

 額で言うと1,000万から2,000万円程度削減したいということかと思いますが、路線を増やし、便数を増やしていくということを単純に考えますと、財政負担が増えていくように感じます。どのような方法でそれを達成していく予定なのか、お伺い致します。

●市民生活部長答弁……………
ぐるっとくんの現行6路線を路線延長及び運行時間の2割短縮を目標にコンパクト化を図り、9路線に再編

致します。この9路線に現在のバス10台を効率的に配車することにより、運行経費の上昇を抑える一方、運行本数の増加等による利便性の向上により、利用者が増えることが見込まれます。これによりまして、運行経費に対して運賃収入が増加することから市からバス事業者に支払う委託料を削減できるというふうに考えております。



 計画の中に、各循環の系統別の1日1便あたりの利用者数というデータがあります。ぐるっとくんは全部で27系統ありますが、小型バスの定員の上限が29人ということで、仮にこの数字を基準で見ますと、全27系統の内25系統がこの数字を下回ります。一概に言うことはできませんが、仮に1便あたりの平均乗客数が一番多い平方循環の日産先回り恵和園行きという系統が39人でありませけれども、始発から終点まで、この39人全員が常に乗っているわけではありませし、また、場所・時間帯によっては空のような状態で運行しているバスも市内で散見されるような状況もあります。そのようなことを勘案しますと、現状でもある程度、小型バス中心で運行できるのではないかと率直に感じます。そこで、現在のぐるっとくんのバスの種類、使用年数、車両の償却年数、それと小型バスへ移行していくことについての見解をお伺い致します。

●市民生活部長答弁……………
現在、ぐるっとくんは、定員30人から49人の中型バス5台、定員29人以下の小型バス5台の計10台で運行しております。このうち西側の路線に関しましては、時間帯によっては小型バスでは乗車し切れない路線もございますので、中型バスを中心に運行しております。バス10台の使用年数は3年から13年と幅広く、5台については償却期間が終了しておりますが、償却期間が終了後、すぐに廃車にするのではなく、可能な限り整備しております。バスの更新は委託金額に影響するため、市といたしましては安全性を第一とし、快適性等に支障がない期間内で長く使用していきたいと考えております。また、ぐるっとくんの小型バスへの移行につきましては、今回の再編により利用者の増加を目標としていることから、再編の効果も勘案して検討してまいりたいと考えております。



ちなみに、中型バスと小型バスでは道路の傷みという点において、実際にどの程度の違いがあるのか、お伺い致します。

●都市整備部長答弁……………
バスの大きさによる舗装の傷みの違いですが、中型と小型を比較してみますと、中型バスが4倍ほど舗装に与える影響が大きいと考えられます。



ぐるっとくんの路線付近、特に住宅街に住んでいる方から、大きなバスが通ると振動がひどい、道路にひびが入るといったことをお伺いすることがあります。舗装に与える影響が4倍になるということは、道路補修の頻度、つまり、道路の補修費も変わってくるということだと思っておりますが、そのような認識でよろしいでしょうか？

●都市整備部長答弁……………
バスの運行による道路補修でございますが、車両の通行量や重量に基づいて計画、施工した道路では、計画的に補修を実施しておりますが、道路の構造区分に耐えられない中型車両が想定以上に通行しますと補修の頻度や補修費も増加すると考えております。



効率的な運行と財政的な観点からいくつか質問させていただきましたが、このような点を踏まえましても、また、現状ではぐるっとくんのバスが大きいため中央病院まで入れないことや狭い道路や住宅街の中には大きなバスが適さないということもありますので、そのようなことも踏まえましても、適材適所のバス運行を考えていただき、やはり、路線によっては更新時に順次小型バスに移行していった方が効率的ではないかと思っております。この点につきましては、これから具体的なことを詰めていく中で、しっかりとご検討いただきたいと思っておりますが、再度見解をお伺い致します。

●市民生活部長答弁……………
バスの更新時における車種選定についてでございますが、コストパフォーマンスのみならず、バリアフリーや環境面からも重要な課題と認識しているところでございます。ご指摘の路線に合ったバスの大きさにつきましては、運行ルート of 走行環境や利用者数等も考慮いたしまして、今後、協議会の意見もお聞きしながら検討してまいります。



最後に、ぐるっとくんの契約体系の見直しについてお伺いしたいと思います。現在の契約体系は、人件費や燃料費、車両の維持管理費などと路線の赤字分を含めた委託費を市が拠出をして、運賃収入がバス会社に入るという形になっております。勿論、バス会社は委託費の中にそれなりの利益を入れて見積もりを出しているでしょうから、極端なことを言えば、乗客が乗ろうが乗るまいが、増えようが減ろうが、バス会社から見てみればある一定の利益を見込めるわけでありまして、市民の利用環境をよりよく充実させることやこれから乗客数を増やしていくといった観点からも、もっと企業としてのモチベーションを上げるような、企業が努力した分インセンティブを与えるような契約体系の見直しもこれを機に考える必要があるかと思いますが、その点についての見解をお伺い致します。

●市民生活部長答弁……………
これから進行する中におきまして、利用者のサービス向上を図る上で、バス事業者の活力を發揮できるシステムづくりは重要な指摘かというふうに思います。先進都市の事例等も参考に検討してまいりたいと思います。

●(仮)埼玉アイスアリーナについて



上尾運動公園の駐車場敷地内に埼玉県体育協会が主体となって建設をされているアイスアリーナの施設の概要についてお伺い致します。

●教育総務部長答弁……………
施設概要ですが、設置場所が上尾運動公園東側の水上公園駐車場で、県立武道館の南側に本年11月初旬のオープンを目指し、現在、建設が進んでおります。施設の設置管理は、公益財団法人埼玉県体育協会が行

い、管理運営は民間会社が行うことになっております。施設は、建築面積が4,733.17㎡で、地上2階建てで、1階にメインリンクとサブリンクがあります。メインリンクは広さ60m×30mで、フィギュアスケートやアイスホッケー、ショートトラックなどの競技が実施でき、国際規格を有しております。サブリンクは、広さ46.5m×17.35mで、このスペースに国際規格を有するカーリングレーンが3レーン設置可能です。2階は、多目的利用室及び観覧スペースがあり、観覧スペースは約50人が収容可能とのことです。なお、1階の観覧スペースはメインリンクの周りになり、大会観覧時、メインリンクとサブリンクの間に仮設の観覧席を設置し、約200人が観覧可能とのことです。営業時間については、通年で24時間営業です。



このような国際規格を有した通年型のアイスリンクというものは、首都圏にはどれくらいあるのか、お伺い致します。

●教育総務部長答弁……………
首都圏にある国際規格を有した通年型アイスリンクですが、関東では7施設です。内訳は、埼玉県に1(川越)、東京都に4、千葉県に1、神奈川県に1施設でございます。



24時間営業ということですが、利用形態はどのような形になるのか、お伺い致します。

●教育総務部長答弁……………
一般利用者の利用時間は午前10時から午後6時までで、午後6時以降から翌朝の営業開始までは専用利用にするとのことです。専用利用とは、例えば、アイスホッケー等のクラブが練習で使用する場合や国・県を代表する選手が練習を行う場合などの利用を想定しているとのことです。



運動公園の駐車場の敷地の4割を使った施設ということで、運動公園の駐車スペースが大幅に減少したことによる影響が懸念されます。その点についてはどのような認識であるのか、お伺い致します。

●教育総務部長答弁……………

水上公園の駐車場は、県立武道館利用者も利用しており、アイスアリーナができることによる駐車場の減少とアイスアリーナ利用者も水上公園駐車場を利用することになると、市で実施する事業、例えば、市民体育祭、シティマラソン、市民駅伝等の駐車場確保が難しくなるという問題があります。今後も、施設管理者である埼玉県公園緑地協会や県立武道館、アイスアリーナ等と調整を図っていきたいと考えております。



市民体育祭やシティマラソンなどが行われる際に、現状でも駐車場が足りないといったお話を伺っておりますので、そのような状況

の中で約半分の駐車スペースがなくなるわけですから、その点は非常に心配です。今後、関係機関と調整していくということでしたが、具体的にはどのような調整、対応を考えているのか、お聞かせください。

●教育総務部長答弁……………

市では、市民体育祭、シティマラソン、市民駅伝などの開催に伴い、上尾運動公園陸上競技場を借用していますが、競技会場の借用申請にあたっては、埼玉県公園緑地協会へ書類を提出しています。駐車場については、競技会場の確保を確認した上で、市の事業と同日開催される県立武道館などの施設の参加人数を確認し、台数の調整を行っています。また、事業の開催にあたり、水上公園駐車場だけではなく、近隣の学校も駐車場として借用していますが、今後、新たな駐車場の確保に向け検討をしていきます。さらに、大会参加者に案内する際には、公共交通機関をご利用いただくよう対応していきたいと考えております。



このような施設は首都圏で7施設とそれ程なく、埼玉県でも川越市と上尾市のみということで、上尾のまちおこしにつながる新たな

セールスポイントになり得るものだと思います。交流人口の増加も見込まれますので、十分にこの機会をシティセールス、スポーツ振興、地域経済の活性化など、

様々な面で活かしていただきたいと思います。それには、この施設の設置主体である県の体育協会とどのように連携をしていくのか、また、上尾市のまちづくりの中でどのように活かしていくのかということ

を明確に考えていく必要があるかと思います。その点についての見解をお聞かせください。

●教育総務部長答弁……………

スポーツ振興の観点からは、アイスアリーナの団体利用の受け入れ体制が現時点でははっきりと決まっておりませんが、市のスケート連盟などと協力し、氷上スポーツ人口の拡大を図っていきたいと考えております。また、シティセールス及び地域経済活性化の観点からは、アイスアリーナの完成による県内外からの交流人口の増加を上尾市の知名度を上げる絶好の機会と捉え、県体協と連携しながら、関係部署とも協力し、市のイメージアップや商業の活性化、にぎわいの創出につなげていきたいと考えております。

その他、「ご当地グルメについて」も質問致しました。

◆◆◆現地調査の報告◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

5月23日、上尾市上野の県道で、校外学習の帰りの小学生の列に軽自動車が入り込み、児童6名と引率をしていた保護者1名が負傷するという痛ましい事故が起きました。文教経済常任委員会では、事故現場を含めた通学路の危険箇所の現地調査を行いました。



事故後、県によりグリーベルトが設置されました

